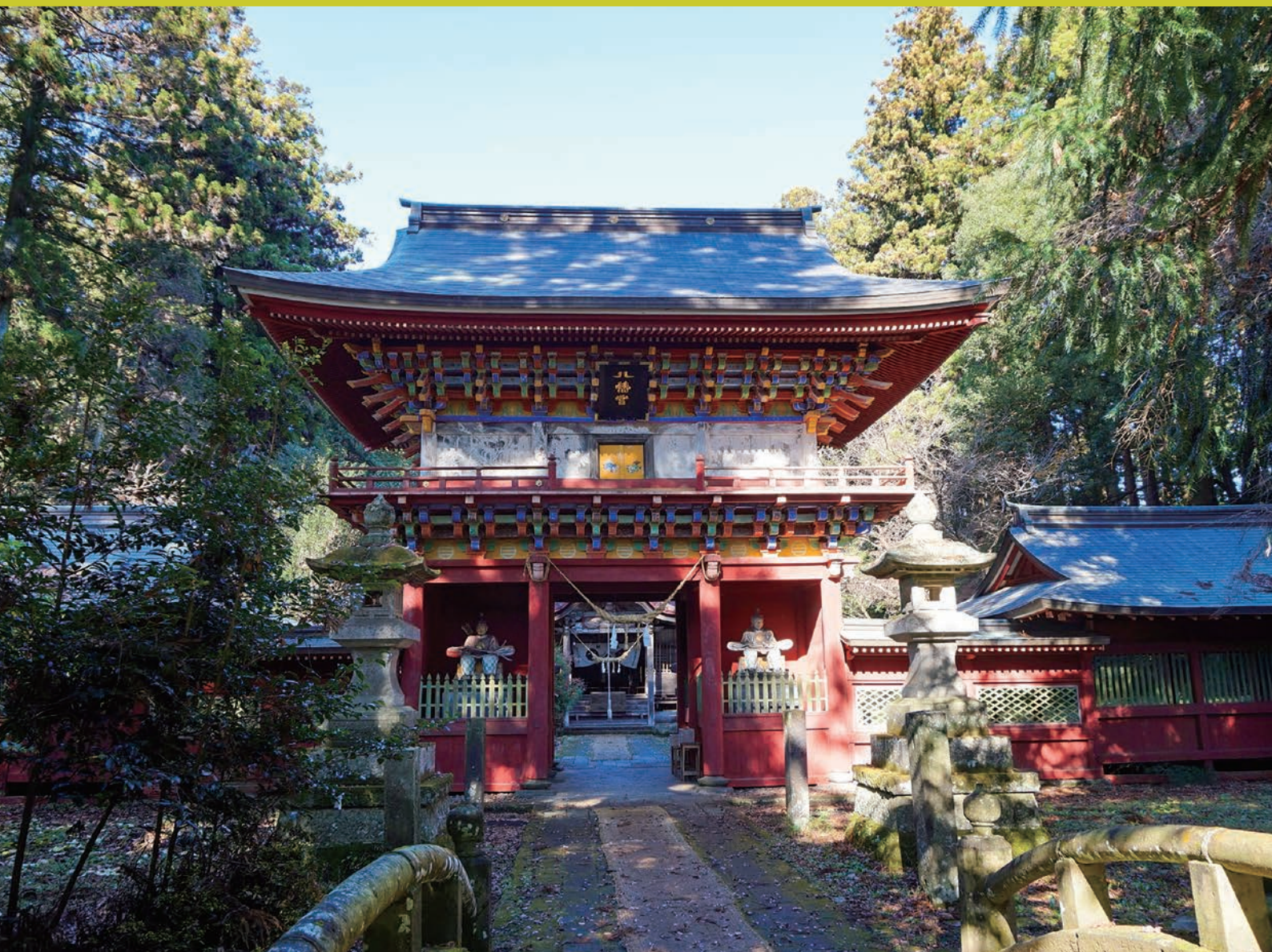


# こんにちはコミュニティ Community



## CONTENTS

- 02 まちあるき研修会
- 07 地域研修会
- 08 地域コミュニティ再生促進事業
- 10 書籍紹介
- 11 いきいきコミュニティライフ！
- 12 「いま人と人をつなぐコミュニティの力が試されている」
- 13 コミュニティ通信
- 14 お知らせ

Vol.  
**119**  
march  
2022



# 令和3年度まちあるき研修会

～持続可能な生きがいつくりと  
地域づくりの秘訣を探る～

AREA : 鹿沼市南摩地区 -nanma-





地域や家庭で困りごとがあれば、みんな  
何とかしましょう、これが草刈隊チームを  
立ち上げるきっかけでした。



2021.12.11(SAT)

南摩地区の様々な取組の中から、今回は「なんまん草刈隊いべえ」と「南摩ふれあい農園事業」の活動を紹介します。

「まちあるき研修会」は、地域資源を活用してまちづくりを行っている県内の事例を、まちあるきをしながら参加者同士の交流や意見交換等を通じて学ぶものです。

12月11日(土)に鹿沼市南摩地区(鹿沼市南摩コミュニティセンター)で「まちあるき研修会」を開催しました。



草刈り隊が発足するきっかけになった場所(写真奥斜面)。綺麗に草刈りがされて、明るいですね。



J Aかみつが南摩支店跡。倉庫を機材置き場にして、活動拠点となっています。機材が充実し、活動の幅も広がっています。



南摩中学校の壁には卒業生によるなんまんのタイル壁画(上)

ラインスタンプもあります(左)



センターの山形所長。南摩コミュニティセンター入口そばに“なんまんコーナー”。なんまんグッズが揃っています。



高台にある高木校庭。グラウンドゴルフなどが行われる地域憩いの場です。草刈隊の伐採で見晴らし抜群です。春には桜が咲くそうです。



高野氏が説明するのは木材チップパー(木材専用の粉碎機)。



# 令和3年度まちあるき研修会 in 鹿沼市南摩地区

— 持続可能な生きがいつくりと地域づくりの秘訣を探る —

## 「地区の概要」

鹿沼市南摩地区は、鹿沼市中心部から南西の方向に位置し、地域南部には長閑な田園風景が広がり、北部には里山の風景が広がる自然豊かな地域です。人口2,882名(2020年5月現在)、高齢化率40.5%。一人暮らしの高齢者は現在100人を超えています。

## 「地域の住民で育むゆるキャラ「なんまん」とは？」

南摩中学校の先生がお便りに描いた絵が定着し、中華まんじゅうに姿が似ていたことから「なんまん」と名前を付けて地域に愛されるキャラクターとなりました。

令和2年6月に商標登録が完了し、地域シンボルとして活用を進めています。

「なんまん」を活用した活動によって、一人ひとりへ地域の一員であることの自覚を促します。



なんまん草刈隊いいべえ  
代表 高野 徹雄 氏



開会あいさつ  
南摩地区コミュニティ  
推進協議会会長  
赤坂 日出男 氏

## 地区の概要説明・活動報告

### 「なんまん草刈隊いいべえ 〜南摩に生まれたお助け部隊〜」

高齢者宅を訪問した時に、「身体が思うように動かないので、庭の草木を綺麗にしようと思ってもできなくて恥ずかしい」という悩みを受けたことがきっかけでした。

高齢者宅の草刈りや低木を剪定する「高齢者住環境美化支援事業」が鹿沼市の「地域の夢実現事業」に採択され、地域住民で草刈隊を結成し、活動を始めました。

「お庭でお困りの高齢者のみなさん なんまん草刈隊がお宅に伺います」と記載したチラシを南摩地区全戸に配布し、作業依頼者を募集しました。

無料で草刈りを依頼すると、依頼者も作業者も気を遣うということで、入金500円、費用の目安は作業員1人当たり1時間1,000円と、低料

金に設定しました。

草刈りを希望する場合は、地区の民生委員に申し込みます。高齢者のお宅の状況を把握している民生員の方から申し込む人も安心です。

また、草刈隊員は、草刈り講習を受講し、技能と知識を備えて、保険にも入り、活動の安全に努めています。

○ 事業継続のために ○  
・ 平日勤務している者も多いので、作業員の確保が必要

・ 市の「地域の夢実現事業」が終了後は自主運営になるため、運営資金の捻出

・ 後継者の育成、40代から50代の人にも引き継いで欲しいなどの課題があります。

初年度は、草刈りの依頼がどのくらいあるのか不安でしたが、綺麗にして欲しいと思っている人は予想以上にいました。

草刈隊のメンバーと地域の人が出会うことによって生まれる笑顔と会話は実にさわやかで、予想をはるかに超えた実りのある活動です。

※地域課題解決や活性化を目的とした地域の活動を支援する補助金



## 「ふれあい農園」

平成14年、鹿沼市から地域振興策として農園事業「ふれあい農園」の開園が打診されます。

農園（耕作放棄地や休耕地含む）を活用して、農業体験を通じた地域内外の人々との交流を図るのが目的です。

事業内容を検討した結果、三つの農園事業

- ・学習農園【地域内の小中学生、幼児（保護者を含む）と高齢者を対象としたもち米作り、田植え、稲刈り、収穫祭】

- ・体験農園【参加者が指導者と一緒に野菜を栽培。芋煮会の実施】

- ・貸農園【一区画50㎡。自由に野菜、花を栽培】

で進めることになりました。

現在は、体験農園は閉園され、南摩中学校生徒が全員参加する学習農園



ふれあい農園代表の青柳氏（右）センター職員の前沼氏（左）



ふれあい農園事業のうちの一つ「貸農園」。1区画50㎡。地区外の人も利用しています。

と貸農園を実施しています。

学習農園は田植え・稲刈り・収穫祭と年3回実施するので、地域の方が中学生の顔を覚えられる関係になります。稲刈りをして、ハゼ掛けを1時間半行うことも子ども達にとつて良い経験です。

ふれあい農園事業は、地域づくりの一環として活動を開始しましたが、参加者の変化や地域の状況の変化により、ふれあい農園に求められる役割は変わってきています。

これからも地域に求められるふれあい農園の在り方を考えながら事業運営を行いたいと思います。



高木校庭で記念撮影



# 栃木県コミュニティ協会地域研修会 (生活学校フォーラム)

国連「持続可能な開発のための2030年目標」  
17目標と169ターゲット



研修を通して、気候変動に関する正しい知識を身につけ、異常気象が生じている現状や個人で出来る対策について、理解を深めることができました。

国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の17の国際目標の中に「気候変動に具体的な対策を」があり、世界的に気候変動への対策が求められています。

この研修会は、栃木県生活学校連絡協議会と共催で行われ、「気候変動を考える〜現在、私たちにできること〜」をテーマに講演を行いました。

12月8日(水)に、とちぎボランティアNPOセンターぽ・ぽ・らにおいて栃木県コミュニティ協会地域研修会(生活学校フォーラム)を開催しました。

## 「気候変動を考える ~いま、私たちにできること~」

講師: 谷口 貴久 氏 環境活動家

現在日本では、新型コロナウイルス感染症がテレビで毎日のように取り上げられトップニュースですが、ドイツでは、地球温暖化のニュースがトップニュースです。日本で報道されないこの気候変動についてお話しします。

いま、この地球で何が起きているのでしょうか。日本をはじめ世界中で台風、豪雨、洪水があり得ない大きさになっています。世界で2番目に寒い国のカナダでは、今年の6月に50℃近くまで気温が上昇しました。翌日、この地域では、高温と乾燥による火事が発生し、多くの人々が逃げ遅れて亡くなりました。このような火災は、なかなか予測することができません。

また、南極の気温が、去年の2月にプラス20℃を超えました。南極の島の雪や氷の1/4ほどが溶けて、海面が上昇して、アメリカのフロリダでは現在晴れの日でも道路が冠水しています。北極でも高温になり、氷が溶け続けています。

ドイツで1日500か所くらい、140万人以上の子ども達が平日の昼間に学校をボイコットして、大人に向かって「環境問題に無関心ではなく、取り組んで、私たちの未来を守ってほしい」訴えかける集会を行っています。

どうしたら解決できるのでしょうか。ごみを減らす、フードロスを削減する、再生可能エネルギーを使用する、公共交通機関を利用する、お肉を少し減らして野菜を食べるなどの選択です。自分が当事者だという認識を持ち、自分の選択を見直すことです。そうすれば、全然違う未来が出来ます。

気候変動を止めるために、『できることは全部やった』と胸を張れる自分でありたいと思っています。自分の考えを強要せず、共感してくれる人を増やしています。かっこいい大人の背中を一緒に見せていきましょう。



私たちがコミュニティづくりに協力しています

県民・行政・企業の協働と社会貢献活動のお手伝いをします!



**NPO 法人とちぎ協働デザインリーグ**  
TOCHIGI COLLABORATION DESIGN LEAGUE

みんなと育むまちづくりシンクタンク

とちぎボランティアNPOセンター「ぽ・ぽ・ら」管理運営団体

☎ 070-4288-7400 HP: <https://www.tochigi-tcdl.net/>



# 地域コミュニティ再生促進事業

～令和3年度に、協会の助成を受けた活動の事例を一部紹介します～

## 金田南部地区コミュニティ推進協議会（大田原市）

『コミュニティ教養特別講座』 令和3年11月7日（日）開催

コミュニティ教養講座は、例年、健康・料理教室などを公民館で開催していますが、令和3年度は、改修工事が予定され、地域住民に慕われている那須神社境内に特設ステージを設置し、金田南部地区の歴史の講演会及び歌の奉納をする特別講座を実施しました。

【第1部】歴史講演

「金丸氏と那須野が原」

講師・木村 康夫氏

（大田原市文化振興課  
市史編さん専門員）

木村氏は、言い伝えをもとに、金丸の地名の由来や金丸氏の興りをお話されました。

また、古代・中世・近世といずれの時代でも日本史に影響を与えた那須神社にまつわる那須野の歴史・文化の素晴らしさをユーモアを交えながら講義しました。

【第2部】歌の奉納

く心で味わうミニコンサート

出演者・金丸 直美氏（ソプラノ）



歴史講演

カブリッチョ

大嶋 芳美氏（エレクティン）

斎藤 明美氏（バイオリン）

ひんやりした空気に包まれ気が引き締まる、厳かな空気感の境内で、歌の奉納が行われました。

金田南部地区の公民館長で、県内で活躍するソプラノ歌手でもある金丸氏が、「君が代」や「荒城の月」などを歌い、大嶋氏と斎藤氏が「情熱大陸」や「ハナミズキ」などを演奏し、コンサートを盛り上げました。

参加者は、地域の歴史を深く学ぶことができ、那須神社への愛着を更に高めました。



歌の奉納

イベント当日、那須神社では、「第25回大田原市菊花展」が行われ、市花である菊を鑑賞するために、多くの方が会場を訪れていました。

豪華絢爛な菊の花が、更にイベントを盛り上げていました。





## NPO 法人とちぎ協働デザインリーグ（宇都宮市）

### 「協働の現場を訪ねる『サシバの里づくりを体感しよう』」

令和3年12月5日(日)開催



築 150 年の古民家の赤屋根が目印



自然学校にいる動物たち



自然学校の取組説明



さあ、自然観察に出かけよう！



ドジョウが捕れた！！



何が捕れたかな？



仕掛けの話をする遠藤校長



意見交換・学びと応援メッセージ



学び・応援メッセージ贈呈

屋内で講座等を実施することが多い研修事業を、さらにステップアップして、協働の現場である「サシバの里自然学校」に趣き、その自然学校の取組を体感し、学びを得る研修事業を実施しました。

サシバの里自然学校校長の遠藤隼氏じゅんから自然学校の取組について説明を受けた後、実際に里山に出かけて生き物探しなどの自然観察をしました。取組を体感した後は、参加者同士による意見交換・交流と自然学校へ応援メッセージを作成しました。

- ・サシバとはどんな生き物なのか？
- ・サシバの繁殖地の条件は、餌となるカエル等の生き物の豊富な田んぼと巣を作れる林が必要
- ・絶滅危惧種に指定されたサシバを守るには、サシバが住みやすい環境である里山を守ること
- ・子どもの時に自然の中でのびのびと楽しく遊んだ経験があると、里山・田

参加者は、古民家と周辺の自然を活かした、子どもの頃からの環境教育についての自然学校の取組を丁寧に説明していただき、その活動を体感することにより、より一層里山を守ることの大切さを学ぶことができました。

また、遠藤氏の活動の手法やプログラムを充実させる方法を知ることにより、自分の活動につなげることができる現場体験となりました。

んぼを残したい、応援したいと考える大人になる（環境教育）

- ・自然に親しむ心を育む（自然保護の心を育む）

※芳賀郡市貝町にあるサシバの里自然学校は、NPO法人オオタカ保護基金が母体となって立ち上げられた、自然の中で遊びを通じて農的暮らしを学べる里山の学校です。

サシバとは猛禽類で、小型の鷹の仲間。日本に夏鳥として渡来し、低山地・平地の林と農耕地（特に水田）の入り混じった環境に生息。里山の代表種。

市貝町は、日本でも屈指のサシバの繁殖地。





つっちー おすすめ!



### ◆ 書籍紹介 ◆

## 『はじめての地域防災マネジメント』 .. 災害に強いコミュニティをつくる』



長谷川万由美 近藤伸也 飯塚明子 編著  
石井大 一朗 土崎雄祐 柴田貴史 著

北樹出版発行

災害が多発する昨今、他人事ではないとはわかってはいるものの、地域ではどのように備えておいた方がいいのでしょうか。「備えに向けた第一歩」はどのように進めたいのでしょうか。明快な答えを見出せずに頭を抱えている人も、頭の片隅で何となく考えている人も、ぜひお手に取っていただきたいのがこの1冊です。

タイトルにもあるとおり、本書のキーワードは「地域防災」。それぞれの地域に合わせた防災をそこで暮らす人たち自らの手で行うことを指し、いわゆる顔見知りの関係を築きやすい小地域での助け合いが大切になります。これからの地域防災を構想・実践する上での必読書として、災害のメカニズムや地域住民主体の減災・防災活動、被災者ケアに必要な視点、また防災・復興支援の国際基準と国際支援の最新動向などを解説しています。

近年は新型コロナウイルス感染症の影響で、被災地における支援活動や平時の訓練に「今までどおり」が通用しなくなっています。言うまでもなく、これは人類が誰も経験したことがない危機であり、その対策にも明快な答えを導き出すことは容易ではありません。難しいければ難しいほどいろんな人が寄ってたかって知恵を出し合うことが必要です。そんな人たちが集い、対話するきっかけとして本書を活用してみたいかがでしようか。まずはみんなで読んでみて、考えたことや気づいたことを共有し、自分たちができることを考えて、試しにやってみる。そんなやり取りが栃木県内の地域の会合や職場、ママ友パパ友同士などで同時多発したらいいなと思っています。

本書は宇都宮大学教員らの研究チームが執筆しました。実は紹介者(土崎)も著者の一人です。ある意味で「栃木県産」の1冊になっていますので、身近に感じてお手に取っていただけたらととてもうれしいです。

土崎 雄祐(つちざき ゆうすけ) 秋田県生まれ。これまでにNPO職員や大学教員として学生向け地域志向科目や市民向け講座のプログラム開発、自治体職員研修の企画立案支援などに従事。(一社)とちぎ市民協働研究会専務理事、認定NPO法人宇都宮まちづくり市民工房常務理事。公職として、那須塩原市男女共同参画審議会会長など。社会教育士。

## 「心ふれ合う明るく住みよい地域社会を実現していくために」

### 賛助会員を募集しています

心ふれ合う明るく住みよい地域社会を実現していくためには、地域住民による自主的・主体的な活動が大切です。

栃木県コミュニティ協会は、住民自らの創意と工夫によるコミュニティづくりを県民運動として全県的に推進し、活力と潤いのある生活の場を築きあげることを目的とし、昭和63年に設立されました。

住みよい地域社会の実現のために、地域づくりに必要なリーダーの養成をはじめとする各種事業を行っています。今後さらに事業の充実を図るために、協会の趣旨を御理解いただき、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

年会費                      ・ 団体賛助会費 10,000円                      ・ 個人賛助会費 2,000円

### 団体賛助会員のご紹介

宇都宮ヤクルト販売 株式会社	学校法人 愛泉学園	株式会社 井上総合印刷
株式会社 オータニ	株式会社 松井ビ・テ・オ・印刷	株式会社 Wポリシ-
滝沢ハム 株式会社	「小さな親切」運動栃木県本部	中央労働金庫栃木県本部
栃木県資産管理協会 株式会社	フタバ食品 株式会社	(50音順・敬称略)

## 私たちがコミュニティづくりに協力しています

『できる親切はみんなでしょう それが社会の習慣となるように』

### 「小さな親切」運動栃木県本部

代表：黒本 淳之介  
事務局：栃木銀行 経営企画部広報文化室  
住所：宇都宮市西2丁目1番18号  
TEL：028-633-1241 (代)







## 連載 いきいきコミュニティライフ！⑤

文 / 安藤 正知

### 「新たな地域活動に向けて」

新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。本原稿執筆時、栃木県は「まん延防止等重点措置」適用の延長を検討しており、2年以上にわたる日常の制限で先行きが見えないコロナ疲れが広がっています。

コミュニティ活動にも大きな影響が出ています。そんな中、宇都宮市では昨年末に「自治会元気アップ講座」が開催されました。オンライン講座と少人数でのワークショップを通して、自治会関係者がコロナ下での不安と活動再開に向けての思いを意見交換することができました。さまざまな活動が中止となり、果たして再開できるのか不安を感じている方が多い一方で、「0か100ではなく20でもいいから続けることが大切」、「今までの活動を見直す良いきっかけ」など前向きな意見も多く聞かれ、有意義な時間となりました。

ここでの学びを「有意義な時間だった」で終わらせないためにも、次の一歩が大切になりますが、私の身の回りで一つの変化がありました。それが「自

治会会員対象のアンケート実施」です。高齢化が進み、班の統合・再編の必要性、活動中止による会費減額の問題、そして自治会活動に関わってくれる新たな人材の発掘などなど、いずれの地域でも直面している課題にどう取り組むべきか、会員の声を反映していこう、というのが目的です。初めての試みなので、配布や回収、結果の共有方法など手探り状態で、かつオミクロン株の感染拡大によりスケジュールが遅れるなど、苦勞もありますが、ぜひ実現したいと思っています。

今回の活動を通して一つ感じたことがあります。それは、自治会を支援する仕組みの必要性です。前例踏襲ではなく新しい意見を取り入れる、確かに大切ですが、今までとは違うことを始めるのは面倒だし、難しいことです。そんな時、相談にのってくれる場があればとても心強いですよね。そして、そこでの出会いが、共に悩み共に歩みつながりを育み、新しい地域活動を広げるきっかけになるのではないのでしょうか。

安藤正知(あんどう まさとも)

認定NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事長

秋田市出身。化学品会社に16年勤務後退職し、2003年より宇都宮市民活動サポートセンター勤務、2005年NPO法人宇都宮まちづくり市民工房設立に関わり、2019年理事長就任、市民主体のまちづくりを目指して調査研究、まちづくりの実践を行っている。2012年1月宇都宮市が開設した宇都宮市まちづくりセンターの指定管理者としてその管理運営に携わる。



## 『いま人と人をつなぐコミュニティの力が試されている』

栃木県コミュニティ協会研究推進委員会委員長 三橋 伸夫

自然災害とも言われる新型コロナウイルス感染症の災禍は、社会的に立場の弱い人たち、高齢者、子ども、母子家庭、非正規雇用者、中小企業事業者などに大きなしわ寄せを及ぼしています。それとともに、コミュニティの活動にも影響を及ぼしていることは周知のとおりです。

コミュニティでは、多くの人が集まる行事やイベントが中止となり、オンライン会議によるリモート開催になりました。行政からの自粛要請があり、また、地域での感染拡大を恐れたコミュニティの自主的判断もありました。コミュニティ活動は、それがなくても日々の暮らしが立ち行かないものではない、という判断が働いたかもしれません。でも、外出の機会を失った高齢者では、フレイル（心身が老い衰えた状態）や認知症が進行しています。また、学校が休校になった子どもたちは閉じこもり生活に大きなストレスを感じています。コミュニティや学校での人と人のつながりが絶たれると、生活の質は大きく低下し、経済活動のみならず社会活動そのものが損なわれます。

しかし、令和3年10月に栃木県コミュニティ協会が一般会員（コミュニティ団体）を対象に行ったアンケート調査からは、感染予防に配慮した活動を手探りで行う姿が浮かび上がります。その活動傾向には3つのタイプがあります。第一は、屋外での三密を避けた活動、例えばウォーキング、体操、環境美化などです。新たに地域の魅力を探す地域探訪的なウォーキング活動が始まった所もあります。第二に、デジタル技術を活用した屋内でのイベント、会議の開催です。スマートフォンのLINEやパソコンのZOOMを活用した打ち合わせ会議などが普及しつつあります。そして、第三に、行動基準の作成にもとづく活動実施です。施設の集会定員を定め換気、消毒・マスクなどを徹底することです。カラオケのルールづくりなどもあります。ただ委縮する活動の休止・延期ではなく感染症の特性をふまえたチャレンジが広まりつつあります。

この結果をふまえいくつか提案を述べます。一つはコミュニティ活動をリアル二刀流（令和3年の流行語大賞）で行うことです。感染症の終息が見通せないなか、コミュニティに定着しつつあるオンライン技術を継承して、対面と併用していくべきと考えます。技術に長けた若者を活動に取り込むチャンスでもあります。二つ目として、屋外での活動を従来にも増して盛んにすることです。小学校などと連携を強め、校庭などコミュニティにある広大な屋外空間を活用することです。

「人のつながりは生きる力。物理的な距離は離れていても、社会的な距離はより密にしなければならない。」防災専門家である室崎益輝氏（地区防災計画学会会長）の言葉です。いまこそコミュニティの人と人をつなげる力を高めて孤独を地域からなくしていくことが切に求められています。







## ◆ 特定非営利活動法人みぶまち地域活性化21（壬生町）◆ （事務局長 玉田 英二）

### ～ 「地域とのつながり」を深める活動 ～

当NPO法人は、10年以上前から任意団体で活動してまいりましたが、新たな視線でまちづくりや地域課題などの解決に寄与する活動を行おうと2020年3月31日にNPO法人になりました。

当NPO法人の目的は、「地域が抱える課題等に地域住民および町民活動団体、行政機関、企業等と協働で取り組み、壬生町すべての人々が笑顔・元気で心豊かに暮らし、持続可能なまちづくりの実現に寄与すること」です。

2020年に始まったコロナ禍により人々の社会生活や生活環境が変わってしまいました。そのような中、当NPO法人は、生活に困った人や居場所を失った人へ寄り添う事業を展開しました。2020年11月から2021年12月まで共同募金会の支援を受け、地域との交流が少なくなった子どもたちに居場所を提供する「地域交流カフェ」や食材等の支給や生活・子育てに関する相談の「ひとり親家庭等のための支援事業」、また、居場所づくりや子供たちの学習支援を行う「みぶまちこころのホットカフェ」を行いました。カフェには地域の子どもたちや大人の方が利用され地域の交流拠点にもなりました。

地域の子どもたちが大人になった時に、地域に居場所があったことを思い出してくれたら幸いです。

これからも地域とつながり寄り添うNPO法人でありたいと思います。



子どもたちの居場所づくり（上）と学習支援（下）を行う地域交流カフェ



### 本郷北ミニコミセン祭り（上三川町）

12月12日（日）に行われた本郷北ミニコミセン祭り（本郷北コミュニティ推進協議会主催）に行ってきました。令和3年のコミセン祭りは、コロナウイルス感染防止対策のため、規模を縮小して「ミニコミセン祭り」として開催されました。

会場の本郷北コミュニティセンターに到着すると、お囃子が出迎えてくれ、その音色でイベントを盛り上げていました。催し物は、子ども達に人気の「ミニ四駆の競争」、高齢者部会による「輪投げ」、日頃の練習の成果を披露する「ミニカラオケ大会」、美味しいと好評のお餅と焼きそばの「模擬店」です。

コロナ禍でイベント等が中止されることが多い中、受付で検温、アルコール消毒、来場者名簿の作成をして、カラオケ大会では歌手と観客の間にビニールの仕切りをしたり、また会場での食事は禁止にしたりするなど、感染防止に努めながらイベントを実施していました。

田仲会長は、「縮小しても準備は同じ。逆に感染対策などで準備は増えている。携わった人は皆一生懸命に活動してくれている」と感謝の言葉を述べていました。

子ども達の笑顔や元気いっぱい輪投げに挑戦する人を見て、外出自粛や人と自由に会えないコロナ禍だからこそ、人とつながるイベントの意義を改めて考えさせられました。

お餅と焼きそばは家で美味しくいただきました。ごちそうさまでした。



本郷北コミュニティセンター



お囃子



ミニ四駆



輪投げ



カラオケ大会





### もっと頼って



【表紙の写真】 那須神社（金丸八幡宮）  
仁徳天皇（313～399年）時代の創祀で、さらに延暦年中（782～806年）に征夷大将軍坂上田村麻呂が応神天皇を祀って八幡宮にしたと伝えられています。

社宝には、那須与一が奉納したといわれる太刀や寛永19年（1642年）建立と推測される楼門などがあり、春と秋の例大祭に奉納される永代々神楽、獅子舞、流鏝馬の行事なども有名です。

明治6年那須神社と改称され、本殿と楼門等は国の重要文化財に指定され、おくのはそ道風景地名勝にも指定されています。

### ▼ 講師・助言者派遣 ▼

当協会では、会員及び市町等が主催するコミュニティに関する勉強会又は講演会に対して講師・助言者等を派遣することにより、コミュニティの活性化を図っております。講師派遣を希望する団体は、申請書を協会に提出して下さい。

（詳細については協会までご連絡ください。）

### ▼ 令和4年度 総会・研修会 ▼

日 時：令和4（2022）年5月23日（月）  
13：30～16：00

会 場：栃木県総合文化センター 特別会議室

【講演・トークセッション】

演 題：「人とつながり、まちを元気にする“コミュニティナース”とは？」

坂本 朋子氏（コミュニティナース）

廣瀬 隆人氏（一般社団法人とちぎ市民協働研究会）

### ■ 編集後記 ■

「持続可能な」や「SDGs」という言葉は、認知度が広まり、「誰ひとり取り残さない社会の実現」が様々なところで目標として掲げられています。

少子高齢化、自然災害の頻繁化、あらゆる分野で急速に進むデジタル化の中、持続可能な地域づくりを考えたとき、行政が推進し、企業が貢献し、NPOやボランティアが支援することは不可欠なしくみですが、ラストワンマイルの一人を残さない社会の実現のためには、地域の中での助け合いがなければ不可能なのではないかと思えます。

ちょっとした困りごとは地域のみんで共有して、高齢者も若者も障害をもった人もできる人が助け合う。生活の知恵をたくさん持った高齢者。スマホの得意な若者。障害をもっているけどITが得意。どの地域にでも活躍できそうな人がいそうです。

地域での困りごとを自分たちのできる範囲で解決し、解決できないときは誰かが行政につないであげる。そこから先は行政がいろいろなつながりの中で解決していく。そんな流れがコミュニティの中から生まれたら誰もが安心して暮らしていけるのではないかと思います。

SDGsは国連で採択されたグローバルな目標ですが、最終目標の「誰ひとり取り残さない」をできるのは地域の身近な力。地域コミュニティの重要性と可能性を再認識しながら県コミュニティ協会の仕事に関わらせていただいた1年でした。（E）

発行：栃木県コミュニティ協会

〒320-8501

栃木県宇都宮市埜田 1-1-20

栃木県県民生活部県民文化課内

TEL 028-623-2110/FAX 028-623-2121

